

北アルプス 劔岳劔尾根R4・劔尾根上半部

小暮

【日時】 2013年5月2日(木)～5日(月)

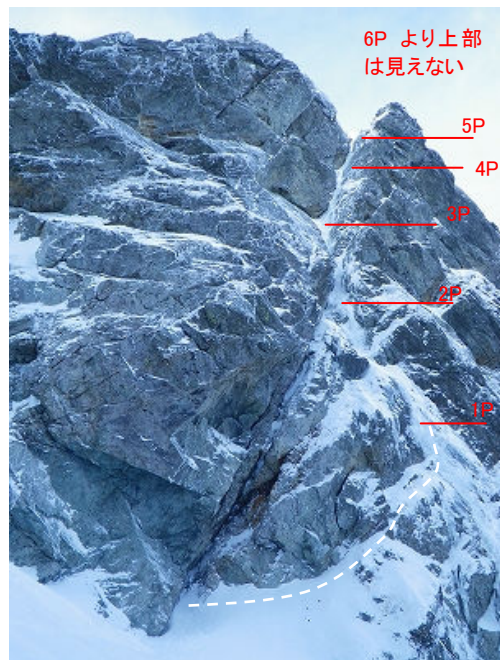
【メンバー】 L小暮、笹川

劔岳を巡る雪稜において、八ツ峰に並ぶビックルートといえは劔尾根だろう。10年前にGWに小窓尾根を登った時に見た、劔尾根は素晴らしい迫力でとても心に残っていた。当時は自分とは世界が違うところだと思っていたが、今年のGWは何処に行こうかと考えたときに、何気なくR4の資料を見ていると、氷結さえしていればアイスクライミングとしてはさほど難しいルートでも無いと分かり、にわかに行きたくなってしまった。当初は休暇が3日間しか確保できそうになかったため、R4のみを考えていたが、最終的に4日間休むことができたため、劔尾根上半部も登攀する計画とした。

過去のWEBの記録などを見ると、氷結が悪い場合は総じて苦勞しており、シャワークライミングになったり、恐怖の登攀をした挙句敗退した記録などが出てきて、山行が近づくにつれて、緊張感が高まって仕方が無かった。幸いにも、連休前から寒気が入り、例年よりも低い気温が続き、GW前半にも降雪があるなど、R4の氷結状況には良い状態が続き、行くしかないという感じである。

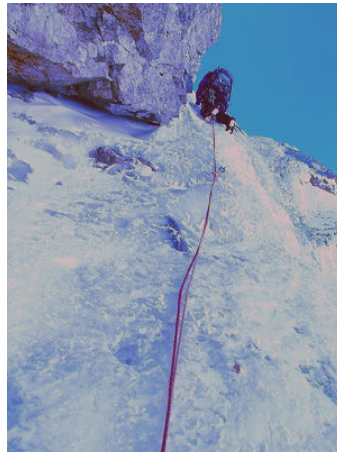
前夜は早めに出発して馬場島に着くが、雨が降っている。連休後半は天気良くなっている予報なので、大丈夫だろうと思い就寝。山岳警備隊に登山届を提出し、白萩川沿いに登っていく。取水堰堤の下と上でそれぞれ渡渉となるが、スノーブリッジが使える、特に問題なく通過できた。タカノスワリと呼ばれるゴルジュも、スノーブリッジで通過できる。夕方から雪との予報のはずが、池ノ谷ゴルジュ出合いに着く頃には、雪がちらつき始めた。ここからは、休憩をする度に雪が降り、歩き始めると止むという天気になる。心配していた池ノ谷ゴルジュも雪が詰まっていた問題なく通過する。二俣でベースを張って、翌日の早出に備える。

2日目は、今回の計画のメインであるR4へと向かう。2時気象、4時出発でヘッドランプを点けて、右俣へ入る。急な雪の斜面を



R4 全景 岩に挟まれた氷のガリー

登っていく。正面に見える三ノ窓はすぐ近くに見えるのは目の錯覚で、いつまで登っても近づいていかない。結局2時間30分もかかってR4の取付に辿りついた。R4は岩溝に挟まった氷のガリーで、ぼったり氷結しているように見える。ちょうど、R4取付に泊まっていた先行パーティが1ピッチ目をリードしているところだった。どうも、ルートを間違えて、正面の岩を登ってしまっている様子で、非常に苦労している。準備をしながら、先行パ



快適なアイスクライミング

ーティのビレイヤーと会話して、我々は正面のハングを避けて右上するバンドに取り付く。

1P目 小暮リード。右上するバンドをトラバースして氷の斜面へ出るのだが、久しぶりのアイスなのと、足元が崖ですっぱりと落ちているトラバースが少々怖い。岩を乗越して、薄い氷の斜面に出ると一安心。スクリューを打ち込むが、岩にあたって最後までねじ込むことはできない。

2P目 小暮リード。簡単な氷を5mほど登ると、正面からのルートと合流する。小滝が掛かっているが、左側の簡単なラインから容易に越えられる。先行パーティのすぐ後ろに着いて、スクリュー2本で支点を作る。ここも氷が薄くて、スクリューが最後までねじ込めない。トボだと、2P目が核心のようにあるが、純粋なアイスクライミングになるので、1P目の方が怖い感じだった。

3P目 笹川リード。先行パーティに登りきるのを待ってから凹角に取り付く。最初がやや立っていて足を開いてステミング気味にして一段登ると、あとはⅢ～Ⅳ級の快適な氷となる。最初の一段のところ、小さなチリ(雪崩)がさらさらと時折落ちるので、顔面シャワー状態で辛い。



で辛い。

4P目 小暮リード。快適なⅣ級位の氷のガリーを登る。

5P目 笹川リード。CS滝を越えると、ナメ氷が続く。

6P目 小暮リード。雪の斜面を少し登ってから、小滝を登り、更に雪の斜面を登る。氷も支点も見当たらず、左の岩壁にハーケン2

本を打ってビレイする。

7P目 雪の斜面となるが、ロープをしまわずにそのままコンテで200mほど登っていく。最後は、氷結した草付と露岩のミックス斜面となるので、途中からスタカットに切り替える。稜線に出ると、細いリッジを辿り、ドームの頂上に達する。周囲はガスってしまい展望無しで残念だった。

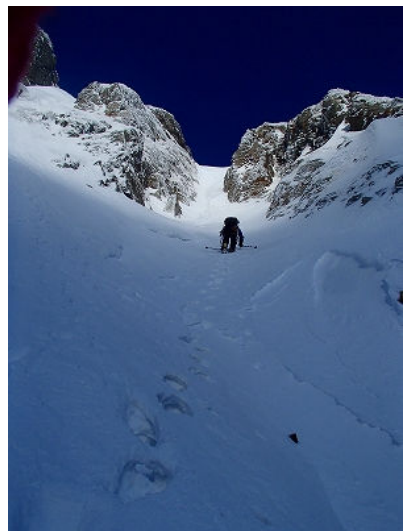
少し下ったコルBからR2を降るつもりが、視界が無かったため、先行パーティともども間違えてしまう。ロープで懸垂するつもりだったので手前の斜面を下降してしまった。

氷結さえしていれば快適な登攀だろうと予想していたとおり、Ⅲ～Ⅳ級程度の楽しいアイスクライミングでした。過去の記録などを見ると、氷結が悪いとミックスで苦労したり、シャワーになったり、アブミを使ったりと難儀しているので、戦々恐々としていたので、今回は条件が良かったものと思う。

【劔尾根上半部】

3日目は、劔尾根上半部である、昨日のコルBより先の雪稜の登攀である。劔尾根はコルBの上下で、下半部と上半部と別々に登攀されることが多い。下半部は門の登攀が核心となり難しいが、上半部は割と易いようで、ガイドブックを見てもあまり詳しく書いていない。

本日は、間違えずにR2を登っていく。二俣のベースキャンプからは、600m近い標高差があり、ここまで登るだけで一苦労なのである。R2は、次第に傾斜が強くなり、ダブルアックスで登っていくが、最後は胸に迫ってくるような急傾斜。最後のあたりはサラサラ雪となり、チリ雪崩が落ちて顔面シャワー状態で、サングラスが真っ白で前があまり見えない。



R2を登ってコルBへ



思ったよりも難しい1P目の岩峰

コルBに登った正面の岩場が1ピッチ目で核心である。思ったよりも難しくて焦ってしまう。正面を避けて右から回り込むように登ると残置ピンがあり、そのまま岩を登ろうとすると非常に難しい。3ピン目でハング気味となり、アブミが欲しい位だが、ここを無理に登ると大変なので、2ピン目まで懸垂して戻り、左側の外傾バンドの方にルートを取り直した。ここは、雪の乗ったのっぺりした岩がガリガリと滑って難しい。少し登って、アングルハーケンを1本打ってランニングを取って上に抜けた。

2ピッチ目は念のため、そのまま雪の斜面を巻くようにロープを伸ばして、次の岩場の手前まで。

3ピッチ目も岩場の登攀。難しいのは1ピッチ目だけで、こ突起などでランニングは取れる。二俣で隣にテントを張ってム稜を登っており、オーイとコールが聞こえてビックリする。

あとは簡単な岩混じりの雪稜となるので、ランニングコンテで延々と登っていく。

快適な登攀で、劔尾根の頭に出る。ここで大休止。天気は雪が降ってきており、視界が全く無い。

更に10分で、登山道の長次郎の頭に出た。劔岳本峰のピークに行こうかと計画はしていたが、時間も12時30分になっているし、視界も全くないので、そのまま下降に入る。小窓尾根から登ってくる人と多くすれ違う。

視界がないため池ノ谷ガリーへの下降点がわかりづらく、少々迷うが無事にベースキャンプまで降りる。隣のドーム稜を登っていたパーティは、時間も遅くなり、迷ってしまいビヴァークしたとのことで、大変だったらしい。



3ピッチ目の岩峰

4日目はのんびり準備して、ベースから馬場島へと降りる。この日は天気が良く、ようやく二俣の全景を眺めることができました。

【行程】

5/2 馬場島(7:45)～取水堰堤(9:05)～池ノ谷ゴルジュ入口(9:55)～池ノ谷ゴルジュ上(11:50)～二俣 BC(13:50)

5/3 BC(4:00)～R4 取付(6:30/7:00)～R4 登攀～ドーム(12:45/13:20)～R2 下降～池ノ谷左俣(14:30)～BC(15:40)

5/4 BC(3:50)～R2(7:10)～コル B(7:30/8:00)～劔尾根登攀～劔尾根ノ頭(12:30/55)～長次郎ノ頭(13:10/30)～池ノ谷乗越(13:50)～R4 取付(14:40)～BC(15:35)

5/5 BC(7:10)～池ノ谷ゴルジュ上(7:45)～馬場島(9:55)

【地図】 劔岳

